

令和7年度第2回会津美里町観光まちづくり推進協議会 開催記録

日時：令和7年10月1日（水）14時00分～16時00分

場所：会津美里町役場 2階大会議室

出席者：6名／12名

事務局：6名

1. 開会

2. 委員長挨拶

会津美里町を見た時に、何も無いと言う方のほうが多いのではないと思うが、会津美里町には観光資源がたくさんあり、可能性が十分にあると思う。たくさんの人が来ることを私は望んでいないが、美里の良さを知っていただけるような観光地になればと思い、観光振興のお手伝いをさせていただきたい。

3. 協議事項

（1）アンケートとワークショップの結果について

・事務局より LINE アンケート及び3地域で開催したワークショップの結果について説明。

（2）第2次観光振興計画（案）について

①序章 観光振興計画について

・事務局より計画の目的、位置づけ、計画期間について説明。

②第1章 第1次観光振興計画のふりかえりについて

・事務局より第1次観光振興計画の内容の振り返り、実施してきた施策、今後の課題について説明。

（委員長）

アンケートの結果についてだが、我々がこの会議で話していることがほとんど反映されている。さまざまな意見をいただいているのでぜひ目を通していただきたい。少数意見を育てるのもいいのではないかなと思う。一方で、静かな町が好きで観光客が来るのを求めているといったネガティブで後ろ向きなコメントもあった。これも一つの意見であり、そういう部分も考慮する必要がある。それから、金儲けのために早朝から通行止めにして、せと市を行うのは昔から疑問があるといった意見も。なので観光を行っていくには、このような方たちに理解していただく、理解していただく人を一人でも増やしていくことが、観光に対するアクションなのではないか。

積極的に進めるアクションとは別に人を巻き込んで理解者を増やすことも、このプロ

ジェクトの中では重要な役割なのではないかと思う。

それから、観光協会という言葉が頻りと出てきている。観光協会確かにプラットフォームではあるが、それを支えるのは観光協会以外のところである。観光協会はそれを束ねる要になっている。もちろん行動もするが、観光協会だけが動くわけではないということは、よく認識していただく必要がある。

皆さんからのご意見いただきたい。

(副委員長)

章は異なるが、宿泊者数の目標値のところで、せせらぎ公園オートキャンプ場が聞き取りの対象施設になっていると思うが、宿泊者数が多いので数値がオーバーすると思う。

(事務局)

過去の実績も含めて、改めて設定を行う。

(副委員長)

サイト数は少ないが、利用者数は増えているので一度実績を見ていただければ。

(委員長)

第2次観光振興計画では、もう一歩進んだ具体的なやり方ができないだろうかと思う。例えば、モニターツアーの参加人数が目標値 80 人に対して実績値 3,157 人とあり、これはクラブツーリズムのバスツアーが来たことによる数値である。これの何が観光的要素で、美里町に貢献してくれたのかというと、実際は大内宿に来て若松に行く途中に通過してトイレ休憩しているようなものである。観光協会の役割として実施するのであれば、バスツアーは何月何日の何時に来るということが分かっているので、その時間に合わせて物販のブースを設置するとか、販売したい人に声をかけて出店してもらうなどできることはある。

観光というのは、お金を儲けるだけが目的ではなく、町の歴史や文化などを知ってもらうことも非常に大切なことである。観光において、歴史や文化と組み合わせることは大事だが、どこかで消費してもらわないと、トイレを貸すだけで終わってしまったら、それは住民の負担が増えることになってしまう。なので、次の計画の中ではそういうレベルまで落とし込んで、具体的に取り組んでいく内容を示す必要がある。そして、何か一つ実績を残すことができれば、他にも事例が増えていくのではないか。

この観光振興計画は、若干抽象的な言葉が使われているので、申し上げたような視点でもう一度皆さんご自身で見えていただき、こういうところは自分たちがサポートできるとか、参画できるとかそういう見方をしていただけると良いのではと思う。

(B委員)

観光協会の新規事業にしろ何にしろ、補助金を用意しないとできない部分がある。また、行政側が考えていること、こういう風にしたらどうですかと助言をしていただきたい。そしてその方は観光専門であり、毎日観光協会に来れるような体制づくりをして、話し合いを行っていききたい。観光協会の体制の見直しと中身の整備を行い、観光客を誘客した場合は、どういうものを買っていただいたら良いとか、旅行会社との協議を進めていくとかそういうところまで話していききたい。

観光協会に来ていただいても、トイレを使用するくらいで帰ってしまうではもったいない。

今、山城が非常に有名になり、興味のある方が増えているということは確かである。そういう方が観光協会に来た際に、平日でも御状印の購入が増えている。ただそれだけではもったいないので、地元の業者が観光協会の敷地で何か販売していただく取り組みも必要なのではと思う。それは、観光協会から直接事業者に働きかけるよりは行政側で例えば農協さんと話をしていただいて、土日にブース出店しませんかと働きかけを行って欲しい。今後の取り組みについてお互いに考えていかないと、観光協会に全て投げられても今はイベントだけで手一杯なので、他の事業は難しくなると思う。

計画(案)の最後のページに、観光の推進体制と進行管理についての記載があるが、観光協会が全て原因となっているが、行政側と半分半分になるくらいの形にして行っていきたい。行政側もこういう風に考えていますよということを観光協会に話していただきたい。それにより、お互いにどういう取り組みをしていくのか考えながら前に進んでいかないと、絵に描いた餅になってしまう。決してできないということではなく、強い協力をしていただければ前に進めるのではと思う。

(委員長)

この計画に書いてあることはその通りであるが、大事なポイントはこの計画をどうやって達成するかである。先ほどの話の、観光協会の役割であったり、人員体制の強化もどうやって行うのか、具体的に何をやるのかというレベルで進めていかないとこの計画を実現することは、先の話になってしまう。

③第2章 第2次観光振興計画について

- ・事務局より基本方針、基本目標、戦略的方針、重点対策と戦略プログラムについて説明。

④第3章 観光の推進体制と進行管理について

- ・事務局より観光の推進体制と進行管理について説明。

(委員長)

全体としてはバランスよくできていると思うが、第一次計画との差が分からず、具体性が足りない。例えば、第一次計画の基本方針の中に選択と集中思考の観光まちづくりとあるが、第二次はさらにやることが幅広く、選択と集中ができていない。これだけのことをやる必要はあるが、その中から何をやるのかを考えるのが計画である。ヒト・モノ・カネ・情報がある程度想定しながら、実現可能なものを作っていくことが第二次の計画であると思う。第一次は調査も含めて広く見て、こういうことができたらいいいねという計画だと思うが、それはもう終わって次のフェーズなので、次はそれを実現させなければならない。一番実現の可能性があるものにヒト・モノ・カネを費やしていくべきと考える。そういうことも想定しながら考えていただくと、もう少し具体性が出てくる。そうしなければ、他地域との連携とあるが何をどう連携する、情報共有をするとはどういう情報を提供して観光客を誘客するのかを提案しなければ、第二次の計画にはならない。第一次とあまり変わっていない印象を受けてしまう。

(事務局)

この計画自体は町が掲げる計画なので、集中していると言っても少し広めには取っている。その次の段階で、観光協会や町など組織体で具体的に何を進めるのかは、再度作らなければならないと思う。

(委員長)

この観光振興計画を始めて 10 年、その前の準備を含めれば 12 年行ってきたが、この内容だと 12 年間何もしないことになってしまう。この内容に近いことは 10 年前にできている。第二次は更に具体的にいつ実現するという、「いつ」がないと第二次の計画にはならない。なので、今の段階ではまず達成できることを行い、何か一つ実績を作る必要があると思う。ヒト・モノ・カネを集中させて第二次計画を行い、それをベースに次の段階に進まなければならない。もちろんこの計画は一つの体裁になっていていいと思うが、具体化したものを作らないと行動はできないと思う。

(副委員長)

これをまた 10 年間計画するということだと考えると、第二次ベビーブームの 50 代の方々が 60 代になり、その方たちが来訪者の一番コアな年代になるということを見透けて考えると、エリア別に分けて計画するのではなく、高田だと神事、御利益などのイメージ本郷であれば歴史や本郷焼のイメージ、新鶴であればブドウといったようなイメージがあると思う。そういう分け方することによってエリアではなく、食を探しているのであればこのエリアはどうですかというようなことができれば、もう少し具体性を表せるのではないかと思う。

結局、伊佐須美神社を高田という地域で括ってしまうと伊佐須美神社は高田の観光スポットになってしまう。町に来られている方々は、伊佐須美神社に来るといのが大きな要点であり、その後は向羽黒山城であったり本郷焼は大体2番手に来ると思う。でもこの方々の思考は少し違ったりする。そうするとそのターゲットを想像した提供、いわゆるヒト・モノ・カネでも一緒だが、基本的には需要と供給なので、需要がないところに一生懸命供給してもお客さんもやっている方も疲れてしまう。なので、その需要をどれだけ集められるかというところを、今回の二次計画に織り込むと、ターゲットはある程度見えてきているところと、それから将来の10年を見据えた部分を見れるといいのではと思う。ただ、だからと言って先進の観光地みたいに、どんどん人を呼び込めばいいというエリアではないと思う。

また、地元の方が地元のことを知れるように観光に対して馴染んでいただくような政策というのは必要だと思う。観光協会がやっている、振興公社がやっているではなくて、来る方々が地元の情報を得ることは必須であり、地元の人が案内できないような場所というのはそれほど魅力がない場所にイコールになってしまうかもしれないので、そういった強化をしていくべき。そのうえで、伊佐須美神社の再建は町全体として捉えていくことが10年計画の中で一番大事だと思う。

それから今、町と観光協会が計画を立てている本郷焼と向羽黒山城を合算したスポットについてだが、そのスポットは町の一つのランドマークになり得るところなので、当然観光の計画の中には織り込むべきことだと思う。そういったところが見えてくると、活動も見えやすくなりやりやすくなる。詳細については、例えば山城であれば組合と観光協会と町でタッグを組んで色々話し合っていたきたい。あと、動線づくりについても考えて組み込んでいただくとより実践的なものになってくると思う。

(委員長)

美里町で観光と言いだした時は、ちょうど国がインバウンド誘客を盛んに行っていた時であった。それを受けて、英語のポータルサイトを作成したり、Wi-Fiを整備したりなど町でも観光促進を行った。しかしそれ以外のこと、例えば英語のサインボードが増えたとかという話は全然聞かない。なのでいっそのこと、インバウンド誘客なんてしなくてもいいのではと思うし、英語のポータルサイトも閉めてしまってもいいのではと思う。そのくらいメリハリをつけないと、あれもこれもはできない。第二次というのは、第一次で絞ってきた路線を実現しないと計画にはならない。一つのプロジェクトを10年以上行ってアウトプットがないということはありえない。何か一つを実現するために何が一番実現の可能性があるか選択と集中が必要。

(事務局)

計画(案)33 ページ以降の具体的な策については、戦略プログラムのうち具体的な

施策は誰がいつまでやるのかといった、想定される目標年度並びにその想定される関係団体等を具体的に明記し、最低でも半分以上は実現できるような内容で再提案させていただきたい。

(委員長)

各委員からもご意見をいただきたい。

(G委員)

計画(案)の中で、観光協会の記載が多く出てきている印象がある。結局、どこと連携して行っていくのかを計画の中に明記していかなないと、前の計画と一緒に達成状況がさんかくとバツが並ぶ結果になってしまう。観光協会の体制を整える話も含めて、どことどのように連携していくかを明記していただければ、計画の内容は全然問題ないと思う。

(J委員)

G委員が言ったことがほとんどのことだと思うが、いつまでに誰が何をという部分を次回話し合いができれば、我々もどう協力していけるのかを考えることができるので、具体的な部分を明記していただければと思う。

あとは、お客さんから言われることとして、この町で何を買って帰ればいいのかとよく言われる。実際、美里町にはこれだというお土産がないので、何か目玉となるこれだというものが一つでもあればと思う。

(委員長)

今回、伊佐須美神社が再建されると本当にたくさんの方が来ると思うが、こういう時に町民の皆さんに、伊佐須美神社は皆さんの財産でもあるので、実際に足を運んでもらって文化を分かってもらい啓蒙活動みたいなものをこの計画に反映させていただけたら。伊佐須美神社の再建をきっかけにと言うのであれば、今から何をするかを行動していかなないと間に合わない。

(3) 今後のスケジュールについて

- ・事務局より今度のスケジュールについて説明。

4. その他

5. 閉会